



真実は報じられているか

仲山 富夫

1) 私の金釘流の字の手帳より、

*顧客と話題にはいけないこと（人種・宗教・政治・人権等）何とも堅苦しい会社の約束事か。

*ロシア（ヤクザ国家）、中国（ゆすり国家）、韓国（タカリ国家）、日本（お人好し国家）、言い得て妙だが、しかし嫌な言葉の北朝鮮（コジキ国家）国民が可愛そうではないか。

*絶対、解決されない五つの話題（宗教戦争・ナポレオンとジョゼフィーヌの仲・嫁と姑・私と妻の仲・私と彼女の仲）今思うと、なんともつまらない話題で遊んでいたことか。世界の課題に興味を持たなかった自分、手帳を読み返すと明らかだ。恥ずかしい限りだ。

*2006年現在、世界に6,000の言語があるという。しかし過去、少数民族の言語は長い間の植民地・同化政策により、約800に及ぶ言語がなくなった（滅び）そうだ。

そればかりでなく侵略国による食の統一が、土地固有の食文化の崩壊を招いた。そして、我々はその事実を忘れていることだ。

*あらためて、人間が起こしてきた地球温暖化の要因が、地球を危うくさせている現実を目を向けて行動をしなければ安全で平和な生活はできないだろう。動植物の生存にも関わることであり真剣に考え方を変えて協同しなければ解決はできない。

2) 真実は報じられているのか、私達はどこまで理解しているのか（ネット記事からの情報を参考にした）。

字数に、限りがあるので今回は次の独裁者の侵略行動の背景をテーマに絞って投稿しました。

*軍力で隣国のウクライナへ侵攻し国内の異論を抑え込むプーチンの姿は、かつての大国社会主義ソ連の記憶と重なる。ロシアの強権による専制主義は長い歴史の中で培われてきた。

侵攻への支持層（7.8割）である高齢者はTVのプロパガンダ（宣伝）が全て真実を伝えているとは思っていない。長い年月、祖国は西側にひどい扱いを受けてきたが、プーチン大統領が屈辱を晴らし、ソ連のような大国に戻してくれるという期待がある。

国民はソ連時代の物不足は経験済み、資源も豊富な国なので、しばらくは持ちこたえるであろう。

ロシアでは庶民層の怒りが政権を倒す大きな渦になる事態は想像しにくい。

多数の犠牲者を出した革命や戦争の後、生命や人権を尊重する考え方が育ってきたのが西欧の歴史、ロシアでは強大な権力による秩序の回復が、個人の尊重よりも優先される歴史が繰り返された。

革命後の共産党は国民を監視し、ソ連崩壊後の不安定な国をまとめたプーチン政権は、野党指導者やジャーナリストが殺害される事件の真相究明どころか、むしろそれを無言の脅しに使っている、個人が尊重されない社会のあり方が、戦闘行為での人間の扱いにも反映されている。

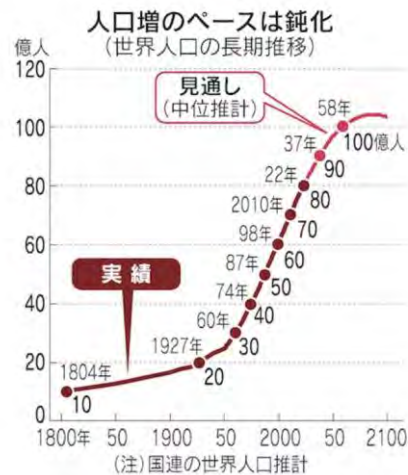
帝政時代から、支配者による命令で社会を近代化させてきたロシア、いわゆる『啓蒙専制』、貴族も商人も国家への奉仕を義務付けられ、自立性を発揮できず個人の権利の尊重という法文化が発展しなかった。

*現状の世界は自由民主制が危機にあり、ロシアや中国といった権威主義的な国が存在感を増している。

以下は私見です。

*2022年、世界人口80億となった（2058年100億予測）。ますます貧富の差が拡大し、食料・水確保が課題になると思う。一方、地球温暖化による

気候変動が増えていく。世界の平和への方向は、国連改革とどの国も真実を学ぶことができる教育体制を構築し、課題（地球温暖化、紛争の要因、人権等々）を共有して考えていく世界である。



かつ、特定の思想・世論・意識・行動を誘発する意図を持った行為（プロパガンダ）は、即刻辞めなければならない、我々は、真実を知るために知識を得ることが必要である。